消炭

利子壽

○消炭　炭時勿ニナリテハ雁觜地ニ穴ヲ穿
冬中野ニ置夏至ヨリ過テ乾收ノヘシ手ニ如
心得ヘキ事也
○土用ニナルト利子生襲共ニ收メテ沢山也其篇
利子壽ノ製スヘシ備忘耑也

霜降　九月中

○始テ表ヘ綿入ヲ着
○暁稲苅始ム
○蕎麥堀始ム
○波薗草出ス
六日目　信州駒ケ岳嶺雪見ユ
八日目　新嚢出ル　擬宝珠都
鳩鳥の葛飾早稲の新嚢り　戸倉　眞淵
砂汰ぐりなりけり
○十日目　鱠殘奥来
○仝　紅葉皆黄ニ　古文ニハ此ヲ紅ニ

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074
ガラス使用

○十日目　柚燒酎ノ作ルヘシ至小雪十月中液有
半從霜降至立冬迫ヨリ立冬ノ五日目製ス
タルヘシ
性強熟時ハ汁和滑ノ不殺以燒酎洗取故柚汁百
又酎二百又ト九殺テ採タルニハ汁百又酎百又

小寒ノ日實ハ前

十月節

○土壹白　是迫ハホケトあテ剪採ヨリ生ズルの出
又暮後月ウトシ出ル風陳出ル
九日目　雪　勢列蔬野鎌ヒ
江列伊賀山ニ見ユ
○十日目
○入液

十月六日

小雪ヲ不ス
雪ハ不ス
又モ云ヒ
小雪ノ氣熟
立記ス

○十日自　柚焼酎ヲ作ルヘシ至小雪十月中液成
半従霜降至立冬追ヒ立冬ノ五日目ニ製ス
タヽリ　柚欲熟時採之酔澄テ
性強熟時ハ汁和滑ヲ不絞以焼酎洗取故柚汁百
又酎二百又トナル絞テ採タルニハ汁百又酎百又

○二十日自　立冬ノ節ニ入ル
○風静ニシテ晴暖ナリ
○土當日ハ　是迄ハオケトろテノ剪採ヨリ生ノ出
又其後月ウトンル
○九日目　雪　勢州蔵野　鎌ヶ山嶽物産ヶ山嶽
江列伊吹山ニ見ユ
○十日目　鳴海ヨリ十二日目来　紀州　那智船　晩船十八反
○入液　李晴珍ノ云立冬ノ後　十日ノ入液ト
雪ふりて出液とふ事を聞ク。ふりを液雨を菜
名とも云　百蟲ヒソミ穴ヲ塞ヒ伏蟄ス
ふりて蟄と記ルとぞ　雷鳴
立記立冬ノ後土ふみ堅ク　霰雪小神の註ニ云風
液ふ又三旬ヲ下ラス

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号　特1-2074
ガラス使用

達て液と出ちとくれも俗方入梅の治いさ為くいとこ宮ホ液為の営のほたちし出ホ月ちとおりおくるとも為の事ホ扨めいめし屬ホ為ホ液為いたし又為奇迚排めい為すれとも待為ホいとなりと定め

○十日目　鳴鵞奥　壬午卓　問屋和柳

天を上客ちいかにも貴ホ表ホなる事ホたちは　ちちこと　何方ホ八為ホ熊野ちち事ホ

藏為上品豆列、多遅し　捕為多久し味方

玄猪　物色を為のいくさみて物ちて為の花のちいくさ物ちて為の花ホ

頂戴ちて為ホ　黒平め為ホ作ホ為ホ表ホ為ホ

黄ちな入色を列ホ　赤ホ為ホ

以上　為のちの十色ホ　白ホ為ホ

ホ九為ホ　位と　掏為ホ

国号覆　九日

達て汲と出ていく
れも俗に入梅の流行
のごとし
東都にては梅水流と
あいなのり
○十日目 鳴鶏奥 壬午年 閏五月
天上客ありけり 客以
たるは 客ごと 向
臓各上品豆列 多遅し 脂多くして味劣
○玄猪 猪を
頂部 黒平め

以上 客ごとの 赤
名九毎也 位こと 白

大十方書已如前

十方世界

○十日目 表之端入訓の如し

十方佛土

○十三日 霰降

○次節 万等を集ハ

十方をとゝのへ

味ハふかく

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』 請求記号 特1-2074

ガラス使用

小雪　十月中

○十日目　表之端入訪のみ

○十三日　霰降

○次節　万年青葉ハ
十あり　とうしまとり　俗ハ
唄大かぐら

檀紙と書出し最初月

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号　特1-2074

ガラス使用

○梅花　三ノ九中障子行當田高木氏八重梅一三

輪宛開花至テ小也△柊ノ花滿開圍邊連有

○八日目　唐梅檀實熟

○十日目　大根初テ引時節月夜ナラハ遠里

ヨシ中ヨリ掘ル時ハ凍ル事ナシ

○四日目　霜ノ爲ニ水ヲ

○仝　秋蕗嶋サヨリ來ル

十月初メノ子ノ日大黒ノ眞似(軍)ト云段ニ

文字ノ二ツ相モリ物ヲ備テ祭ルハ大

ヒルガヘ

是ヲ二ウシヒトト云也眞似ハ

大雪　十月節

○梅花　三ノ丸中障子行当田　高木氏八重梅一三輪京間花至テ小也△枝ノ花滿開　四日目　蕾多シ　十日目　大抵初ル　唐梅檀實熟ス

○八日目　唐梅檀實熟ス

○十日目　大抵初ル　十三日　雪降　十四日目　雪降　十五日目　雪降　十六日目　雪降　十七日目　雪降　十八日目　雪降　十九日目　雪降　廿日目　雪降　廿一日目　雪降　廿二日目　雪降　廿三日目　雪降　廿四日目　雪降　廿五日目　雪降　廿六日目　雪降　廿七日目　雪降　廿八日目　雪降　廿九日目　雪降　三十日目　雪降　十一月朔日　雪降　二日目　雪降　三日目　雪降　四日目　雪降　五日目　雪降　六日目　雪降　七日目　雪降　八日目　雪降　九日目　雪降　十日目　雪降　十一日目　雪降　十二日目　雪降　十三日目　雪降　十四日目　雪降　十五日目　雪降　十六日目　雪降　十七日目　雪降　十八日目　雪降　十九日目　雪降　二十日目　雪降　廿一日目　雪降　廿二日目　雪降　廿三日目　雪降　廿四日目　雪降　廿五日目　雪降　廿六日目　雪降　廿七日目　雪降　廿八日目　雪降　廿九日目　雪降　三十日目　雪降　十二月朔日　雪降　二日目　雪降　三日目　雪降　四日目　雪降　五日目　雪降　六日目　雪降　七日目　雪降　八日目　雪降　九日目　雪降　十日目　雪降　十一日目　雪降　十二日目　雪降　十三日目　雪降　十四日目　雪降　十五日目　雪降　十六日目　雪降　十七日目　雪降　十八日目　雪降　十九日目　雪降　二十日目　雪降　廿一日目　雪降　廿二日目　雪降　廿三日目　雪降　廿四日目　雪降　廿五日目　雪降　廿六日目　雪降　廿七日目　雪降　廿八日目　雪降　廿九日目　雪降　三十日目　雪降　正月朔日　雪降　二日目　雪降　三日目　雪降　四日目　雪降　五日目　雪降　六日目　雪降　七日目　雪降　八日目　雪降　九日目　雪降　十日目　雪降　十一日目　雪降　十二日目　雪降　十三日目　雪降　十四日目　雪降　十五日目　雪降　十六日目　雪降　十七日目　雪降　十八日目　雪降　十九日目　雪降　二十日目　雪降　廿一日目　雪降　廿二日目　雪降　廿三日目　雪降　廿四日目　雪降　廿五日目　雪降　廿六日目　雪降　廿七日目　雪降　廿八日目　雪降　廿九日目　雪降　三十日目　雪降　二月朔日　雪降　二日目　雪降　三日目　雪降　四日目　雪降　五日目　雪降　六日目　雪降　七日目　雪降　八日目　雪降　九日目　雪降　十日目　雪降　十一日目　雪降　十二日目　雪降　十三日目　雪降　十四日目　雪降　十五日目　雪降　十六日目　雪降　十七日目　雪降　十八日目　雪降　十九日目　雪降　二十日目　雪降　廿一日目　雪降　廿二日目　雪降　廿三日目　雪降　廿四日目　雪降　廿五日目　雪降　廿六日目　雪降　廿七日目　雪降　廿八日目　雪降　廿九日目　雪降　三十日目　雪降　三月朔日　雪降　二日目　雪降　三日目　雪降　四日目　雪降　五日目　雪降　六日目　雪降　七日目　雪降　八日目　雪降　九日目　雪降　十日目　雪降　十一日目　雪降　十二日目　雪降　十三日目　雪降　十四日目　雪降　十五日目　雪降　十六日目　雪降　十七日目　雪降　十八日目　雪降　十九日目　雪降　二十日目　雪降　廿一日目　雪降　廿二日目　雪降　廿三日目　雪降　廿四日目　雪降　廿五日目　雪降　廿六日目　雪降　廿七日目　雪降　廿八日目　雪降　廿九日目　雪降　三十日目　雪降　四月朔日　雪降　二日目　雪降　三日目　雪降　四日目　雪降　五日目　雪降　六日目　雪降　七日目　雪降　八日目　雪降　九日目　雪降　十日目　雪降　十一日目　雪降　十二日目　雪降　十三日目　雪降　十四日目　雪降　十五日目　雪降　十六日目　雪降　十七日目　雪降　十八日目　雪降　十九日目　雪降　二十日目　雪降　廿一日目　雪降　廿二日目　雪降　廿三日目　雪降　廿四日目　雪降　廿五日目　雪降　廿六日目　雪降　廿七日目　雪降　廿八日目　雪降　廿九日目　雪降　三十日目　雪降　五月朔日　雪降　二日目　雪降　三日目　雪降　四日目　雪降　五日目　雪降　六日目　雪降　七日目　雪降　八日目　雪降　九日目　雪降　十日目　雪降　十一日目　雪降　十二日目　雪降　十三日目　雪降　十四日目　雪降　十五日目　雪降　十六日目　雪降　十七日目　雪降　十八日目　雪降　十九日目　雪降　二十日目　雪降　廿一日目　雪降　廿二日目　雪降　廿三日目　雪降　廿四日目　雪降　廿五日目　雪降　廿六日目　雪降　廿七日目　雪降　廿八日目　雪降　廿九日目　雪降　三十日目　雪降　六月朔日　雪降　二日目　雪降　三日目　雪降　四日目　雪降　五日目　雪降　六日目　雪降　七日目　雪降　八日目　雪降　九日目　雪降　十日目　雪降　十一日目　雪降　十二日目　雪降　十三日目　雪降　十四日目　雪降　十五日目　雪降　十六日目　雪降　十七日目　雪降　十八日目　雪降　十九日目　雪降　二十日目　雪降　廿一日目　雪降　廿二日目　雪降　廿三日目　雪降　廿四日目　雪降　廿五日目　雪降　廿六日目　雪降　廿七日目　雪降　廿八日目　雪降　廿九日目　雪降　三十日目　雪降　七月朔日　雪降　二日目　雪降　三日目　雪降　四日目　雪降　五日目　雪降　六日目　雪降　七日目　雪降　八日目　雪降　九日目　雪降　十日目　雪降　十一日目　雪降　十二日目　雪降　十三日目　雪降　十四日目　雪降　十五日目　雪降　十六日目　雪降　十七日目　雪降　十八日目　雪降　十九日目　雪降　二十日目　雪降　廿一日目　雪降　廿二日目　雪降　廿三日目　雪降　廿四日目　雪降　廿五日目　雪降　廿六日目　雪降　廿七日目　雪降　廿八日目　雪降　廿九日目　雪降　三十日目　雪降　八月朔日　雪降　二日目　雪降　三日目　雪降　四日目　雪降　五日目　雪降　六日目　雪降　七日目　雪降　八日目　雪降　九日目　雪降　十日目　雪降　十一日目　雪降　十二日目　雪降　十三日目　雪降　十四日目　雪降　十五日目　雪降　十六日目　雪降　十七日目　雪降　十八日目　雪降　十九日目　雪降　二十日目　雪降　廿一日目　雪降　廿二日目　雪降　廿三日目　雪降　廿四日目　雪降　廿五日目　雪降　廿六日目　雪降　廿七日目　雪降　廿八日目　雪降　廿九日目　雪降　三十日目　雪降　九月朔日　雪降　二日目　雪降　三日目　雪降　四日目　雪降　五日目　雪降　六日目　雪降　七日目　雪降　八日目　雪降　九日目　雪降　十日目　雪降　十一日目　雪降　十二日目　雪降　十三日目　雪降　十四日目　雪降　十五日目　雪降　十六日目　雪降　十七日目　雪降　十八日目　雪降　十九日目　雪降　二十日目　雪降　廿一日目　雪降　廿二日目　雪降　廿三日目　雪降　廿四日目　雪降　廿五日目　雪降　廿六日目　雪降　廿七日目　雪降　廿八日目　雪降　廿九日目　雪降　三十日目　雪降　十月朔日　雪降　二日目　雪降　三日目　雪降　四日目　雪降　五日目　雪降　六日目　雪降　七日目　雪降　八日目　雪降　九日目　雪降　十日目　雪降　十一日目　雪降　十二日目　雪降　十三日目　雪降　十四日目　雪降　十五日目　雪降　十六日目　雪降　十七日目　雪降　十八日目　雪降　十九日目　雪降　二十

胡蘿蔔　ニンジン　温飩　ウンドン
蓮根　レンコン　石花菜　カンテン
右七種ヲ以テ供ス

金柑　キンカン　銀杏　ギンナン
南燭　ナンテンヲ以テ供ス　備

大十月書成七則　十一月中

南方ノ極緯廷ヨリ又太陽四十七度北ヘメグル
晝夜ニテ七日　東ニテ九貝ニテ九ツ　戌ニテ九ツ　亥ニテ九ツ
晝西ニテ七日　子ニテ九ツ　丑ニテ九ツ　寅ニテ九ツ　卯ニテ九ツ　辰ニテ九ツ　巳ニテ九ツ　午ニテ九ツ　未ニテ九ツ　申ニテ九ツ　酉ニテ九ツ

○海藻　此節ノ如髪　極上品
○頭髪菜　右ニ生
○喪ノ有ル時ハ氷ヲ用ヒ
○冬至日数至元旦ニ五十日者民食足若不滿五十日者一日減一升有閏日益一升最驗アリ
○歎冬華藍　此候水ヲ用ヒ一升ト云ヘ百八十久ノ物也

十二月二日目　阿蘭陀國正月朔日ト云

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074
ガラス使用

胡蘿蔔　ウニンドウ　金柑　キンカン
ニンジン　唐根　南蛮名花菜　ナンバンナ

右七種ヲ以テ供ス

冬至　十一月中

南方ノ極線遠ヨリ又太陽四十七度北ヘメグル
晝西ニテ七目東ニテ九目ニナル　文政七申ニテ西ニテヘリ尺ニ金尺
ニ寸ニナル

○海藻（もつ）　此節ノ如髪　極上品
○頭髪葉　右ニ生
○喪ノある時ハ氷ヲ見ず
○冬至日数至元旦五十日者民食足若不滿五
十日者一日減一升有識日益一升最驗アリ
○歎冬華蓋　此候求メルガ為ニ一升ト云ハ百
八十丸ノ物也
○十二日目　阿蘭陀國正月朔日ト又

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074
ガラス使用

○按候比ヨリ風炉ノ下大ヤタラ二本完焼ヲケ
ハ一人ヲ焼ニ及バス○竈ノ傳二番ト六一尺
九寸巻凡五分亮都合二尺也竈ノ底ノ周サ
二尺ニシテ上ノ差渡一尺八寸ニシテ火之元ハヨシ

○漢武太初年丁丑十一月朔旦冬至
夏五月造太初暦以正月為歳首　宜
改正朔兒寛儀以為宜用夏正○甲子
夜半朔旦冬至ヲ得ク八漢元封六年丙
子也其正ニ復セシヲ建寅正月ヲ歳首ト
セシハ太初元年丁丑也○朔旦冬至八四
十五代聖武帝神龜二年乙丑帝冬至ノ
賀ヲ受給フト此後百三十七年ヲ経テ五十六
代清和帝貞觀十九年庚辰閏十月小ノ太
ニ改メ朔旦ノ賀アリシ此後百十九年アリテ
六十四代圓融院天延二甲戌年冬至上卿

上表入北以後過二七百六七年ヲ隔テ寛文
九己酉禁中三テ冬至ノ節會行ハル又九
十五年ヲ過テ今年明和四丁亥朝日冬
至ナリ 讐華閑面禽中ニ出ツ
○入寒ノ候カナリ 用心皮籠其外虫
ノ入ヘきものヲ晒天ニ合寒ニ當テ干ス
れ虫ノ蔓なし 方ニ乾ク虫ノ蔓ナシ

小十月朔日 亜相別

十二月節

○廿六日 伊勢守殿御行列ニ而参着 若年寄 駿河守

新年 御年賀 御出 被遊候 御用 御取次 被仰付候

十二月節

○廿七日 鳥羽稽古 雷来 廿日前寒気薄 片鬼

十二月節

○八日目 三人共東中務子行当リ 高木ノ梅早キ枝 ヲ折取

十二月節

人モ憶リ人モ 両方ナガラ身上ハヅトヒ

小寒 十二月節

○廿七日 晴寒氣強シ

○廿八日 曇雪降ル

新芋煮ル

○廿九日 雪降ル

○三十日 雪降ル

○十一日 晴

○二日目 鳥羽稍鰯來ル 昨日ヨリ前寒氣強シ

散リテ群集セズ

○八日目 三ノ丸東中隊 降雪 寒暖計 午前八時 寒ノ前日四時 昨夜來ノ雪ハ

行当リ 高木ノ梅早キ枝ヲ

○十二月初ノ申ノ日 金錢ノ取遣スル者ハ

人モ 儲リ人モ 両方トガタノ身上ハ

寒威猶強

○十二月十三日恒例煤掃 前々日二階下ノ押入
前日奥通 當日庖厨
○寒威 文政六癸未年十二月大乙未朔六日ヨリ
八剋小寒 十二日丙午ノ日ヨリ十五日迄四日之間
發シテ蒼虎蔵成大氷柱不流如此寒氣百
年以前有之由前代未聞故ニ記ス

小寒四日之間一剋

十二月中

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』 請求記号 特1-2074

ガラス使用

寒威猶強

○十二月十三日恒例爐掃 前々日二階下ノ押入
前日奥通 當日庖厨
○寒威 文政六癸未年十二月大乙未朔六日戊
八劇小寒 十二日丙午ノ日ヨリ十五日迄四日之間
發シテ蒼虎龍成大氷柱不流如此寒氣百
年以前有之由前代未聞故ニ記ス

大寒 十二月中
○十日目 籠殘奥來 七ツ半ノ奥ノ雪ミシテ
ロ有ルノ小ク小石ノ如シ 秋迄上ルコトアリ
水ヨリ出ル物ノ先ヲ味ヒ
樽去ル 午下ヨリ寒 十日間ヨリ寒ク

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』 請求記号 特1-2074

ガラス使用

十二月廿一日

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074

ガラス使用

暁ノ寸春 正月節

晩(脱カ)暁(脱カ)ノ寸春 墨モテ記ス

茎 正中ヨリ立ツ卜 横ヨリ

ヨキ事ヲ 記ス ニツン ヨキ

包ミノ 光種ト七種ト 松ノ

田作 搗栗 草蘇 蕗

和ヘ七種 粉引松 ゆでうど 白

たゝき 昆布(候のカ)

鏡餅 張天如カ對類大全巻十七餅字

下ノ細註ニ曰 麦米粉做成形如鏡入於炉

内炒(煎カ)熟ノ書ニモアリ 然ハ書ニモアリ

十二月廿一日今暁卯

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』 請求記号 特1-2074

ガラス使用

○立春　辛酉の立春　云フツ烏家鴉ニ演
ふりすて　餘氷を
物ともく　春のうら水
かく立春のりの字と
うちなびき　今日立春の
元日立春ハ併年ニ
今日のこと　漢ニ教ありて
ありあけの　淵や春の　初ちどり
○松ノ日　上巳の松と
題神

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074
ガラス使用

櫻品　蘭山先生　奎庭小牖ニ委シクアリ　文化五戊辰年
二十一首ノ花ノ名アリ

（案景濂ノ話ノ如何　以下ニ詳ス）

愛水ヒガシ云　雨ノ櫻ハ花実形状ゆうみ
似タリ雨ヲ含ミ匂ヒ多シ　櫻ハ花ト葉ト相ヒ類ス
外紅ニ内白ノ如シ　櫻ハ花ト葉ト相ヒ類ス
多葉ニ小倭俗ニ八重櫻ト云　花ノ櫻ノ如シ
うつ〳〵ニ多ク咲ク　ニ品ノ外ニ
櫻ノ名ヲつくし　たり〳〵ニ
ちるおよの花ヲ海ヲ　ニ海ヲ
雨ヲ含ミ匂ヒ多シ　ニ
雨ヲ含ミ匂ヒ多シ　ニ
雨ヲ含ミ匂ヒ多シ　ニ

かく作りぬれい桜玉の花のすくなく等とりて作るや但し実部ふくらみい櫻(エスラ)桃の花とわかちて異し

○横川ヶ云櫻之於我國也云櫻而曰花亦称名云花いとやくなく咲ゆゑなるとも名付く人の意も多の物もやく生るゆゑなれといふごと一説なり花くさの園くとものつまいふ

○凡桜ハ草をいふて故なり但桜と称せるハ

○桜ハ夢ものも花世堂長くさくりて咲ことよとも

をも花こうるもの

○櫻品ト云書家蔵松岡玄達先生の作行り世ゝ行なるも梅品と云ハ桜品ハ彩色毛筆得たり桜ハ排譜師鈍永圖と載たり画名開通号地妙館

○日本ハ漸菅花とめて称ふい物なり後世花とのこと称ふいと桜なりといふ事八雲御抄み妻く倫しみつる奥儀抄み

賀之

桜なり嘱く花なき花のたゞ美かおなかみ

漢土みて花とのみ称せらるゝ牡丹也と云牛
ゲ 聞見後録云洛中花多種而獨名牡丹謂
花又漢土の海棠八日本の櫻の如く尚南ゟといふ
洛中貴賤成都人謂海棠
みもてへ仕ふる也といふ 蘐林伐山花名有
為花尊遺之也
海棠者皆從外来海棠海榴是也といふ
夢溪漫錄下ニ委アリ 看
世ゝ称須磨寺 若木櫻ともいふ
摸列矢田郡須磨の浦多し上野山福祥寺
辨慶自筆之札

此花江南所無也一枝於折盗之輩者
任天寵也永紅葉之例伐一枝可剪一枝
壽永甲辰三月二日 辨慶

開東の上杉家領花の制札

此櫻花一枝も折ちらし候ものは
罪科申付者也仍如件

花とみるその色香のせいとくもむいなしと花稱ス
ちぐの花のそれぞれのいろもあり
なをざりにおるべからず
しき植ゑてたのしむべし 流罪死罪にあたるべし

○信玄公甲府完山中路ヨリ受ル法華ノ
　ノ記ノ御札ノ裏
叶花一枝一葉モ折ル事ナカレ
如ノ如ク守ルヘシ
天永庚辰ノ紅葉ノ一ト
天正 仍而如件　刻ノ字

嵐山ノ楓ノ
名所ナレハ
人向ノ邪魔ナル
折ナトイヒテモ
山寺ノ春ノ
折ナトイヒテモ

可折ト和ノ
花ヲ折ルトイフ事ノ
叶山楓ヲ
若キ者ヲ
折ル事ヲ
折ル事ヲ

ヲ隆卿ノ子ニ
成ル所ノ
ヲ追テ
カク申セシ
白浪ノ名ヲ
使ヲ
前ヲ

本朝語園三、九八ウ

○主殿司ノ官人落ヲ
源ノ公忠
主殿ノ朋ノ

桂陰漫筆三、九丁ウ
又今昔物語三、八丁ウ

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074
ガラス使用

○櫻花　宋景濂詩曰賞櫻日本盛於唐如被
牡丹兼海棠恐是趙昌所難畫春風繞樹起
雪歟香是我邦櫻花也文選沉休文所云山櫻
蓋雖櫻類王荊公集所詠山櫻即吾邦山
櫻也異邦謂無櫻花者不知此等故耳

○兒櫻　小櫻の類を以て兒櫻と名く前條の
吹雪山櫻の如き是也色と合て愛すべきこと花
乃り山櫻のもとなるうへ古來
山門みや堂上の女達兒とをなして守をとり学問
をのみ習ふ法性坊學意の家女
菅神のあら世ありとも堂上えとり男子も
粉黛の粧ひを飾うへ諸山中の花のごと
故み山中の櫻のごとくまもと兒櫻と云へし刈
櫻をみと云りの如く兒櫻の形

○枝垂櫻　櫻類ニ非ス　小サク不下垂花一葉ノ如シテ單ニ
櫻ノ似テ八重ノ早咲ノモノ又彼岸
櫻ノ條下垂シ大木ノモノ又無之櫻ノ
類ニテ花ノ大サ八重ノ大サノ如ク姥
櫻トイフ各像ニ作ル又秋ノ色黄ナル
ヲ二月比花ヲ又秋ノ彼岸ニ
白花トモ咲ルモノ
小ノ全ク人ノ如ク
○姥櫻　羅山拾穗曰枝花繁茂而枝上如
無葉老婆多落歯無歯葉與歯相通故

花ノ小キモノヲ
云ヒ枝ノ垂ルヲ
ガケ咲ノ
花ノ大キサ
大ニ
丁ニ
ヲ
ヨリ小枝大ニ
ヨリ山櫻ノ
辨厚トイフ
名ヲ出タリ

謂之姥櫻　花大ニ
して八重ニ
して薄紅
色を帯
ひ
枝
葉
無
し
園
と
云
ふ
○
御
室
の
中ニ
も
あり
と
雖
も
高
臺
寺
の
ものと
作
物
とい
ふ
も
殊ニ
よく
咲
き
揃ひ
て
美
麗
なり
○
劉
公
園
二
尺
許
より
三
尺
許
迄
の
矮
木
にて
枝
葉
繁
茂
し
て
花
多
く

五花ヲヘさゞり桃のごとくみ山の花一ト眼ニみゆ
小さき色花赤く葉の後ニて出る山桜み接
して候也

○伊勢桜　八重咲ニて赤き花多くさゝり緋桜
とよく似たり葉ハ緋桜より厚く闊く花も
うつむき咲ニ候ハ伊勢桜ニ候哉ハ不分明
よみ人ハ伊勢桜ニ候ハんと申候ハ尤ニ候
伊勢桜とハ早咲ニて葉ハ緋桜より厚く

なりとものを尾張みち近しと云意ニて伊勢桜と
海をとうとものよりなり

○姥桜　嫩葉かゝり未ひらかぬ花も葉もともニ
海もとみてハ尽りなきとものいい陸奥の姥皆ちり
故みちのくまでと云ニや伊勢と云ふるくちり西行
千載ニ入て大輪ニて葉ハ長くさゝら花びらあつ
み皺ありて時ハ訪ふ人ハ花を思ひ葉を切ニ
入れハ大抵かちりくる

○芳野桜　花多く淡くさゝらとものを云花のかさこと
を山桜とハいひ国[illegible]吉野山み

立花の八重さくら 桃の下くさ 此の花一茎み出して
小さく色赤く 葉の後より出づ 山桜み接
して能接也

○行勝桜 八重咲 此人云 行勝卿と
号して或人云 行勝卿ともと号へし 頼政の軍の時
源の仲綱ゲ守り吹物の戦みよりの称い
京都もい皆 緋威の 綱代の下みけりそみちの
りうなと 羊浪草 綱代の浪云々 吹物
行勝桜とりふい早咲なり 伊勢桜みて 遅咲

なりとものを尾張みち近しと云意みて 伊勢桜と
海をとイとものを行

○旭会 嫩葉かし 芽も葉も
海もみでも 八重咲 一説 此
故みそまでこそ 千葉みて 大輪 千葉
み皺 詞 入れ 大形みちりこ
○芳野桜 花も
を山桜とりひ 児桜と 云 吉野山み

なる。其の山桜なども、花の色濃く、葉もうすく、花の又半ばかりも咲きて、花竹梅候の布施山にて、山桜と名づく。吹芽の時、葉の南垣際多くして

△色うすくあかく花形色うす

○源氏若木櫻 廣益地錦八、花ふくら小ぶり山櫻の花形みて色もうすく葉も小く〳〵て愛らし〳〵山櫻より早く開く小き木也花色吹山櫻み接て能接小枝ゟ接ぬ〳〵山櫻より久早〳〵

○若木不斷櫻 地錦抄附三、源氏若木櫻の実生ゟ出来枝より春より動と花咲也枝ゟ〳〵痩形みて葉もちいさく葉ぐしく久〳〵

申 此一条次ノ不斷櫻ノ条下へ入へし

枝もしなやかにて花ふさ吹小枝ゟ出て葉ふさ〳〵芽少〳〵花色うすく山櫻より又ふさ吹小枝ゟ出て葉ふさ〳〵芽出て花一ぱい咲花色うすく葉多く春の花ふさ吹小枝ゟ出て葉多く秋ハ葉多くなりて春の花ふさ吹小枝ゟ出て花多く葉多くて

○洋國產ノ桐ノ種類ニ數種アリ其中ニ最モ大木ニ成リ葉ノ大ナルモノヲ大桐ト云ヒ葉ノ小ナルモノヲ小桐ト云フ大桐ハ實ヲ結ブコト稀ニシテ小桐ハ實ヲ結ブコト多シ大桐ハ實ヲ結ブ年ト結ハサル年トアリ其結ハサル年ハ花ノ蕾ヲ生スルコトナシ小桐ハ毎年花ヲ開キ實ヲ結ブ

○桐ノ實ハ一房ニ五ツ宛ヲ結ブ其實ノ大サ鶏卵ノ如シ

○桐ノ實ハ九月ニ至リ熟シテ裂ケ開ク其實ノ裂ケ開ク數ニ因テ年ノ數ヲ知ルヘシ

○桐ノ實ハ其裂ケ開クニ從ヒ其種子ヲ風ニ吹キ散ラス其種子ハ薄キ翅アリテ能ク風ニ乗シテ遠ク飛ヒ散ル

○桐ノ種子ハ其實ノ裂ケ開キ落ツルニ從ヒ地ニ落チ其地ニ生スルモノアリ又人ノ之ヲ採リ播種スルモノアリ

さくそも多き中に蒼と白とを多く花ひらく蒼なり
葉多くひらくる花房短く
後庭の観音堂の庭中ひくく大木せいそろひて
中に花さく南北寺社所任例の
ひくく咲くとぞ

○車返し桜　画図通三、物産六十日清明也状桐
桐ヶ谷に
古寺多き寺の境内ひくく後醍醐天皇再び御車
を巡てされ御旅ひくくまよひ八字と桜ちり喜扇
按ニ宮脇仲今及状面　関東ひくくは柏木の衣紋桜と一種なり

仏足石　碑面の窪ミの内ノ塙
陸奥井戸りを多の小みあり

一二八字と一字と多くひくく咲ちり判云仏勢門前を
小東角寺庭前七多き古塔隆ひくく
昭七多き中に大木一ツ是を桜ちり咲ちり
○普賢象　櫻花間出葉故名蓋普賢薩
埵所駕白象歯皐相列所見似之花皐葉
歯和訓相通　八重の色ひくくは桜ひくくて花の中ちり
多き若枝ひくく出ひくくものなり花白ひくくは云東奥仙臺
ひくくいまと云ふ天桜と云ふ是を大桜と云ふ
○浅黄桜　ま色を浅黄と云浅葱の字ちり今
ひくくき桜ひくくて多ひくくい葉ま色のおちり
浅黄の字ちり薄ひくくき花ま大ちりの門

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074
ガラス使用

お町清壽院奥の方坐亭の前の所也高サ
ハ丈ばかり表ハ二間半裏ハ二間ニ横ハ
二丁同所ニ形ハ四角ニして又仰向
如意形の石の角ニ有八角ニ有あり
洗ふ事ハ不叶清善寺ノ七面ハ花見ノ古跡也（江戸大井 亜光寺ニアリ）

昂碑 浦堂 とよめども 酔ふ色
艶なるおもかげ 光琳 又 紫桜 花色うす
二種なり 花ハ白し 江戸土久保ノ
ニ名 妃 ニアリ

○雲珠桜 城州 鞍馬山の名木なり 雲珠ハ
鞍の具也 とよめども 花ハ白し 葉ハ
鞍馬の縁 とよめども 花ハ白し 葉ハ
一重も八重もありて一具のごとし 八重の
ものハ遅く開く 一説ニ 八重ハ
きりふ 談ずる

○泰山府君 普賢寺 楽寺ニ古木あり
可惜也 花大ニして重なりて花葉長く色ふ
○麥桜 葉桜ニ似て花穂こまやかに枝間ニ下垂
白色ニして 珠菜の花ニ似 実ハ山椒の

○雲珠（ウンヅ）　城列鞍馬山の名木なり雲珠ハ

○楊貴妃　初春しめやかなる夕ぐれ大和圖會みるやうなり

しめやかなる夕ぐれ大和圖會みるやうなり

○泰山府君　昔長樂寺の寺内なりしとかや

可惜也花大ぶりにて色あざやかなり

○麥櫻（ウメザクラ）　葉櫻（トヒザクラ）ともに似て花鶴子ほど枝間ゐ下垂

白色みて珠菜（ナシ）の花とひとし実ハ山椒の

鞍の具也とぞ　鞍のかざりみやら眼といふあたり

鞍馬の縁でもあるまいがとの鞍馬山の櫻ハ

一重も八重もあるが一體のハ早く開く一説みうぜさうぐを遅櫻也

ものハ遅く開くともいふ諺ぞ

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074
ガラス使用

八重桜

大きなる如し 培養として 六七株にて 一ふさみなり
なるものと 京二軒茶屋 多くみゆ 名物なり 七八町都
春永みて 心遣て 跡堂と 此樹 大桜(イヌサクラ) 尾ト ハ
ミゾほりし 京祖屋との 東みち 一廣井中の 丁
三四町 左右 ともに 桜 植つゞき 全 名所なり
むかし 少将 葬りし 地 一名 素天又ハ 上溝と 云 仏名 ありし
実、六月 熟す 甘くして 味 よし 雀 喰ふ
なり 詰 この山中 多し
○八重桜 とハ 南都 奥山 稲寺 東金堂の
ごとし 霊木也

○影向桜 (ゆかりある神仏の前中等にうゑしを云ヒたる) 常様也 ト云 対 片端 (御園町) 東 角 ニ 古 ク
の

十一

の七日 同比 花 ひらく 文政五午年 穀雨 三盛 すぎ 頃
ともいふ 花 ちる
○尾張の 高牓村の 高牓村の
一向宗 長久寺 門 右 (七回り小松 ありて 西 折所 有 辻 本 小松 ありと 云)
○七つ寺 寺門 右 (昔 父の 桜 ト云)
(両 面 の 寺 ニ 大 桜 ありと 云)
○九日桜 えりよし (東 中一 本 名 ニ 花 に 辨 大 桜 の 花 ニ)
○栗御殿 ありし 中 ニ 栗 も 生 て 花 ニ
至て 寒き 年 ハ 弱 ク 咲 ト 云
○白八桜 古 ク より 此 名 ハ 平 咲 ニ
して 白 ク て 厚 ク 赤

高臺寺の楓みわけし八重ちるころの忌敷光寺内

ちり絲ゝ

○なてしこ　唐撫子　八重ちるころ

○夏刈なてしこ　なてしこの枯ゆくそとを接

○桐者（キリガヤツ）　八重ちるころ

四十九

○桃灯　八重大楠ちるころ

○大桃灯　ちるころ

六

○小ぶ鞠　ちりうせ小楠

二十五

○大ぶ鞠　ちりうせ小楠ちるころ

四

○独ちの毛（芝山云金時草ト云）　芝山と一物二名し叶村ゟ芝山ゟ出ル

○らいてう　黄梔八重椿　くちなし

○虎尾　葉ひろく長くさがり枝もくねりてまがりて若とき是迄の所謂虎の尾の班文は似たるものあり　江戸栢木ノ

○石竹椿　丸しま　圓照寺ニアリ

○花山　葉ひろく長くさがる椿の枝ぶりなり

○金玉椿　濃紅金玉花の大輪

○ちゝま　葉ひろく長くさがる

○ちゝま　葉ひろく長くさがる大輪八重

○ちゝま　葉ひろく長くさがる大輪八重

○ちゝま　葉ひろく長くさがる大輪八重

○牡丹椿　葉ひろく長くさがる大輪八重

○初よぶり　葉ひろく長くさがる大輪もくさがる

○ちゝま　葉ひろく長くさがる大輪八重

○玉椿・赤通有　白葉の二枝ひろく長くさがる大輪

○ちゝま椿　いろ〳〵の葉ちゝの枝の八重さがる

○牡丹椿　葉ひろく長くさがる大輪八重

○初よぶり　葉ひろく長くさがる大輪もくさがる

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074　　ガラス使用

○貴之郷の梅のひと
もと一ノ宮和歌の
なたの方みちより花開て一文
字みちるもちろん
ものゝ六十日比み
とちかう古歌豊の
梅ぼのゝ陰みちりぬ 貴之卿
いわたり 南へ這根出来秋尓
きゝ来ぬ春先おちり 是ものゝ
郭公あこちかうて駅君と云ものゝ六十日比
詠のゝこ秀歌の花
梅ぼのゝ陰みちりぬ 貴之卿
いわたり 南へ這根出来秋尓
きゝ来ぬ春先おちり 是ものゝ
郭公あこちかうて駅君と云ものゝ六十日比
詠のゝこ秀歌の花

三年 六月引移ちかう 弘法大師の植られし
松七本ありしを 写ぬ
といふ 是の離のなたのうみ山桜所〻の梅
古木ありしを七十年の間 法師又千年の沙羅
桜小木もの一株ありそも七十年の法師なり
文政三庚辰年三月九日 弥位み作て記す
○貝原先生の花譜中八丁ヲ
此桜ハおく高和白ちう吹みだり桜 汐み
糸桜 又黄台桜 汐みだれ桜 みつい桜 秀桜
是ものゝ桜い具盛横み二三ヶの間せもち年年
早桜 久喪たの叶桐ヶ台 ぬるもし叶花陽今の

桐ヶ谷より出たりと云楊貴妃といふ桜に
よりもおもり又紫山桜より遅く伊勢桜より
八重咲にして色もの色々あり又一説に桜の初めて
咲より散迄の名ありとぞ又伊勢八尾張みちのくなど
より出たりといふ伊勢桜の別品の遅桜なるべく虎の
尾八重咲にて色深く泰山府君桜と一対なり泰山府君桜の色
遅く虎の尾と一対なり泰山府君桜の色
白く葉赤く昔時花の盛り年を積て泰
山府君の葉と赤くなりたるなり名ぬくと云ふ故
八重咲にて花のこまやかなるはまぢえ等

如来桜 名ぬくと云ふ故なり
葉赤く一重咲にて花白く遅し
云桜にして 普賢桜 細桜 遅桜 曙桜
曙桜にして葉赤く遅し
のわかき葉を称して 紅葉山の紅葉 といふ
桜八近古なりと 荒山桜 荒山みむろ 吉野山の桜
川の小名なりし 山上桜 山上桜 山上桜 山上桜
山の名なり遅し 小倉山桜 小倉山桜 小倉山桜
十時桜 十時桜 十時桜 十時桜 十時桜 十時桜

尾の花み似たり 京の仁和寺の仁王桜と同木なり
小原 勝馬 八山ふところにして 花遅し 人間四方
芳菲をうばひ 山寺の花いまだ開不 多し
江刕 坂本 みち桜 多し 河内の柳みの(イハヤ)山 彼岸桜
多し 同国いこま山のふもと 八重桜 千株の並木あり 甚
桜多し 其外 みぢかき 甚 花の多き 甚 春の山み
開年早し 江戸より 奥州 上野み桜 多し 信刕の
桜 多し 元桜 八 赤土 ゆえ 花 赤し 又 桜と 桜
との間 赤土 ゆえ 花 赤し 又 桜と 桜 との
園の内 又 八 たとえ 近き 山み 桜 をうく 称して 衆観

となりくむくし 増鏡み 西園寺公綱の
山桜 岑雪 尾み 枕 元桜 八 赤土 ゆえ 花 赤し
仁和寺 八 赤土 ゆえ 花 赤し 吹上 ゆえ 花 赤し 山
み山の 傍 谷の内 林の 奥み 又 桜と 桜との
み 遠うて 近き 不 みわたす 雲 ごとし 甚 花の
○樺桜 八 葉 みて 咲 甚 遅し 如何となれば
いと 是 真の 洋黄桜 なり 黄桜 元
浅黄 八 のとう 黄 の 内 さき み うすき の 色 也
今 花 蕾 を 洋黄 み とうだい とう 形 て なり

○大膳桜　おほしだれ桜

○枝垂桜　一名糸桜

○京東福寺非殿向ハ将軍義持公の
桜を移りけん精舎文明の頃遊観の地となりし事
を載して桜を伐らしめんとせしを思ひとゞまり
給ひし桜　枝垂桜という　又紫桜とも

○ひとよざくら　上野　寒松院前原ニアリ　○又人々櫻　元ゝ山ニ對ス　上野　清水堂

○薩刈　產　緋櫻　堀切　酒井抱一ノ筆ニ名木大キカリシ由

花いろ人の本紅也　中下沙里乃法ろうこみて抽也

文政　弥生花ゆりとゐる　緋ざくら　画用　なり　未ノ筆四脚　天

○元一番の史櫻　緋ざくら　天

私とこを燒とい足ず山の櫻ふうと云花の花　天

○迷ふ櫻　芝山と門前ニ植ゑて頗る酔客ニ賑ふ　云

雜の内一ツなれどもとりわけ優美なるを以て迷ふと

ふ名を得しなるべし又帰去来櫻ともいふ

惑の如し　されど帰去来櫻ハ高うして迷ふ程ニハあらざるべし

緋櫻　半八重　緋櫻ニ似て少ク淡し　又半八重ニ似て色ヨシ　ひとり物元文ニ出ル　八十日ニして開ク花老木ナルヤ色薄シ

△薩摩手　丹緋櫻ニ似て大ニ異なり　薩刈　産　緋櫻　堀切　産

みちの国ニ多シ　花重弁の梅ニ似て甚美也

冬ごもり芽と生ル　花も全櫻ニ似て甚美也

ゑ一ゑふも樹も共ニ悪田院ニもアリ　初元文ニ出ル

行程東ハ山京湖ニ至ル　悪風のおそれ多し

本朝ニ長崎ニ至るの心　帝都ニ至るの船ニ便ず

○彼岸櫻　仁明帝の御時ニ始テ出ル　淀ノ辺ニ多シ

きり家貞をくへ数ヶ所ニ植ル　白ラズーて家上ニ墓ヲ

のこきて居ル　別名ニ遍照ともいふ　其花御廟の

○芝ぬぎ桜　上野　寒松院前原ニアリ○又人々桜　元ゝ山ニ對ス　上野　清水堂

○薩列　產　緋櫻　堀切　酒ヶ井柿ノ下ニアリ　実ハ大キ也　中下沙地ニ生ス　花ハ緋ニ似テ本紅也

文政　年　花ハリトシテ

○花ハ常ノ如ク　酢ニ漬ル

秋ニ至テ　漬ルコトヲ

○逆毛櫻　芝山ト門跡ノ

雜ノ内一ツニシテ　頃ノ時節ニ

ヨキ花ヲ開ク　又帰リ

咲ヲ云　又帰リ咲ハ

惑ノ如シ　サレド帰リ

咲ニハアラズ　ト云

○薩列　產　緋櫻　堀切　酒ヶ井柿ノ下ニアリ　実ハ大キ也　中下沙地ニ生ス　花ハ緋ニ似テ本紅也

文政　年　花ハリトシテ

○花ハ常ノ如ク　酢ニ漬ル

秋ニ至テ　漬ルコトヲ

○逆毛櫻　芝山ト門跡ノ

雜ノ内一ツニシテ　頃ノ時節ニ

ヨキ花ヲ開ク　又帰リ

咲ヲ云　又帰リ咲ハ

惑ノ如シ　サレド帰リ

咲ニハアラズ　ト云

△薩摩守緋櫻ト云ハ　大島ヨリ薩列ニ

遣ス　花重弁ニシテ

ヨキ花ヲ開ク　ト云ヘドモ

冬ヨリ芽ヲ生ジ花ノ

多キ事ヲ好ム　ユヘニ

久シク栄ル事ヲ得ズ

○彼岸櫻　仁明帝ノ

御宇ニ　清水山ニ

植ラレシト云ヘドモ

○薩摩守緋櫻ト云ハ　大島ヨリ薩列ニ

遣ス　花重弁ニシテ

ヨキ花ヲ開ク　ト云ヘドモ

冬ヨリ芽ヲ生ジ花ノ

多キ事ヲ好ム　ユヘニ

久シク栄ル事ヲ得ズ

○彼岸櫻　仁明帝ノ

御宇ニ　清水山ニ

植ラレシト云ヘドモ

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号　特1-2074

ガラス使用

高梨小左衛門

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074

ガラス使用　挟み込み物

梅 西東 春を歌ふ 向妙 諏訪の春
夢の余り 前に 大平記 後編 十四巻四ノ
海辺の暁 島の梅 心
よく詠れる 梅 景物
○唐さうし 花 嚢 衣 着 梅 八ツ
梅由来あるよし 或演 昔 梅 八ツ
○右 段 ものがたり 昔 梅 一五年ものがたり
○下の段 伊勢 梅 一重
一木の梅 伊勢 正月 ものがたり 故 名
又 若竹 六ノ
土 句

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』 請求記号 特1-2074

ガラス使用

一 糸櫻 彼岸ニ似テ枝柳ノ如ク垂也

糸櫻枝葉ノ顛倒ニ異ナシ

二 小江戸 江戸ニ大小二品アリ 桐ヶ谷ノ変化ナリ 散ズレテ枝ニ梁ミ有モノナリ

三 山櫻 白キモ薄紅モアリ

紅白疏密大小ノ別アリ又芳野山櫻ニ異ナシ

四 芝山 一名鷲尾氏云 花六瓣ニシテ大輪ナリ 色白シ

大名倉ノ里法花寺ニアリ奇品ナリ 門外ノ花足丈キニ一名之ヲ又御会法山ト云ナリ

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』 請求記号 特1-2074

ガラス使用

㊄ 江戸

二番ニ小江戸アリ・㊅
注ヲコレニ入ル

㊆ 芳野

上野ニ彰考館アリ

㊇

手毬 ウス紅ノ小輪ナリ
糸桔ノ類也

㊈ 桐谷 一名 車返

又南門桜ト云
八重一重アリ

江戸ニ似テ色薄シ敷

カタヨシ

㊈

奈良 花小輪ニテヤサシ

㊉ 不断 一名 節人又

節會樓ニ似タリ
十六日櫻ト云
尤早キ八正月
上元ニ開ト云

㊉

逆手 芝山ニ似テ薄紅六瓣ノ内一ヒラ狂アリ
大久保ノ里法苔寺ニアリ

㊉㊀

鹽竈 花ビラホソクテ皺アリ 葉迄見事ナリ

大内ニ有
西大寺
大隅護国寺
右中将家
松本ニ有
ト云

十三 外山

十五 普賢象

千辨ニシテ
一所ニ五六輪
ツク花ノ中ニ
二筋ツヽ細キ
葉アリ

十四 駒繋

花大白ノ花辨
廣厚シ蒼ノ
暗次シ紅シ

十六 虎ノ尾 又

蘭枝海ト云
枝ニ曲折シ

十七 一文字 花開ニ
一文字ニ
ナル也

王子權現ニアリ
山桜ニ似テ大輪
單辨ニテ花房
平ク四ツ五ツ
ツク

十八 暁櫻 大輪ニシテ花ノ直
二寸余有ナリ一名
明星櫻ト云

十九 昭君 花ヒラ廣ク
厚ク莖立長シ

二十 淺黄

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074

ガラス使用

九一 法輪寺 江戸ニ似テ
莖長シ
大佐ろふこく寺
の前又渡谷合ニ
多生ゆり

十三 殿櫻 児櫻ニ似テ
花白ク中輪也
白山 本郷山王
清水御前坊ニ
多有

十四 香櫻 花ニバラニ附キ
香気アリ香
ナキハ緋櫻
ナリ

十二 香櫻 上野清水
谷凡ソ十ヶ所
ニ多シ

二十五 糸桜 大木枝垂ル
一所ニ二三十
花ツク也
花ろ山の下り
のいちめんなる入口と
りの左右の土手

九六 緋櫻 院サル神ハ色
甚紅紫菊ニ
似タリ
石川吹玉寺内ニ
有ト云ヘ共未ダ
見ズ

九七 眞櫻 花瓣細シ
虎ノ尾ニ似タリ

九八 嵐山 花ろ山 白山 護国寺
伝通院ろ 吉祥寺
傳正坊ろ一本ニテ
多シ

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074
ガラス使用

二十九 彼岸

二月春分ノ節開ク
花開ズシテ單也

三十 兒櫻

花單ニシテ
内ニカヽヘ
有李花ニ
似タリ

上野山中所々ニアリ

東叡山五の社ヨリ
赤ノ方ミヤウ方ヘ
行ク路也

三十一 薄墨

花ヒラ細シ
莖葉尤ニ
青シ

牛込通リ行ク
路ノ畑ニアリ

三十二 異種 楊貴妃

花ヒラ底紅
先白シ

上野ニ枝色楊貴妃ト呼ベリ

三十三 楊貴妃

花ヒラ底紅
先白シ

上野ニ枝色楊貴妃ト呼ベリ

三十四 雪ノ山

雪ノ如ク白シ

王子ニ枝ノ
方ノ右ニアリ

三十五 海棠櫻

色ホンノリトシテ
海棠ニ似タリ

三十六 伊勢

色赤シ花ビラノ
中先白シ

深井ノ花ニアリ

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074
ガラス使用

三十七 帆掛 帆立ハ六辨也

是ハ櫻桜ヲ云 深山中ニ三十二種の桜木アリ

杜甫ノ作 ハ花の ちりきはなる 帆掛櫻とやいふらん

三十九 有明 八重モアリ 江戸ノ類也

八重ニシテ内ニ二辨帆ノ掛タルカ如シ

白キ中ニ内ハ少シ紅ニテ 外ハ少シ紅ニテ

三十八 九紅 花辨ノ先紅ノサシタル如シ

四十 九重 桐谷ニ重子多キモノ也

四十一 孃桜 蕊長シ 跗ウスシ 花ヒラニ切コミアリ

四十二 五處 一ヒレニ五英一処ニ集リ生ス 依テ名ノ

王子金輪寺山内ニアリ

四十三 婆娑岸 葉ナシテ花開ク

四十四 樓閣 色美ク艶アリ 蕊短ク桐谷ノ変花ナリ

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074

ガラス使用

四十五 帆立

帆立花白ク一辨ニテ別ニ一ツ帆ヲ立タルガ如クアリ

小石川白山社ニアリ

墨田川堤水戸家抱ノ白山又渋谷金王ノ傍ニアリ白山ヲ称スルノ義ナリ

四十六 華櫻

嶺金色ニシテ花ビラニヨレ有

玉子屋ノ乃外ノ如シ

四十七 白櫻

色白ク花ビラ廣ク丸シ莖葉共ニ青シ

芳野山櫻ト云モ同シ

雪山櫻ノ如ク白シ

芳野山ノ櫻ナリ

四十八 泰山府君

花ハ虎尾ニ同シテ枝ニ曲折アリ

四十九 提灯

枝ノ頭ニ數輪垂ルナリ

深谷里花ハ小ニシテ

大膳櫻ノ如シ

五十 熊谷

花ヒラニ尖アリ

盛上有テ小菊ノ蕊ニ似タリ

大久保辺野邑ニ多シ

鈴浦

物部社

三韓ノ花ノ王トス

我日ノ本ノいにしえ

イヌザクラ

麥櫻

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074

ガラス使用

五十三

影向松

ウシツヒ
棠棣也

五十三ノ
○櫻櫻 邸花ナリシガ齋朝卿
ノ賀西ノ節ハ今阪山ナリ
入江北東角 左右田
勘助所持根上リ多ク
蕾甚ダ入モノ

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』 請求記号 特1-2074

ガラス使用

我君臣こゝにて物を戒の地ゐるといふの忠
度卿の花やかにも有のこゝろなるまゝの
名花にて他の義し掛ものと
思ひつゝて法師の時偈を考へ添と
ぞなりて作りれさるゝと思ひつゝて源氏の
ぶれの後の物語面白きはゆゝ不
うなるとみなまゝ歌徳人といふ時な
りのたの古歌とゝ折ふ面ふしと
のさまひつゝてそうふみれと古今の

雪

千首

たゝなはの和泥橋又宮ばし
ちかきあたりなり

世の中を思ひすてゝも社なのさらぬ別
大枕詞ノ一ノ字七ツ　俊成卿

まとやこんかれゆく物ゝ春の曙
まとやこんかれゆく物ゝ春の曙

これの社いと深き森の風さびかりともみえまとふ　家隆卿

雪

千首

たゝなはの和泥橋又宮ばし
ちかきあたりなり

世の中を思ひすてゝも社なのさらぬ別
大枕詞ノ一ノ字七ツ　俊成卿

まとやこんかれゆく物ゝ春の曙
まとやこんかれゆく物ゝ春の曙

これの社いと深き森の風さびかりともみえまとふ　家隆卿

池塘春草

春の色をえの秋なうけ
公弼の云ゝ池ての春草
とせば春の色

春の色を踏しめとめの社
春ちかき野辺の秋をたちかへり
がてらと云ゝ祖古

我宿の花見がてらや来ぬ人の
公弼の云ゝ池ての春草

春楊堂　于則

公弼の云ゝ池ての春草

酒旬田　春六

池塘春草　又秋と加て

春の色をえの秋なうけ
公弼の云ゝ池ての春草
とせば春の色

春の色を踏しめとめの社
春ちかき野辺の秋をたちかへり
がてらと云ゝ祖古

我宿の花見がてらや来ぬ人の
公弼の云ゝ池ての春草

春楊堂　于則

公弼の云ゝ池ての春草

酒旬田　春六

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号　特1-2074
ガラス使用

秀逸と云ふ事なし

千首

なつ草の秋を待ちかね咲花の
ちるをなげきて物思ふころ　　宗雅

まてやとん郭公なく卯月哉
ちるをなげきて物思ふころ　　家隆卿

世の中を思ひ捨てて入山も
まことの道に入ぬ成けり　　俊成卿

大概皆
（ノ字ナシ）

池煙齋又稿を加て
ありと花をそれの秋なりけり
公卿の云ぬ花の雪
とせば秀逸
ありと花を踏とゞめんかたもなし
ちるをなげきて物思ふころ
ちるをなげきて物思ふころ
ちるをなげきて物思ふころ

うの山咲そめてより鶯もの向ふ
殿閨ながうて花咲ぬ秀逸
世の中を絶て桜のなかりせば
春のこゝろはのどけからまし
表
と
法橋公の名ある山桜
折のそしんのうの皇山桜
芳野花ふぶき
芳野花ふぶき
画立 東湖
そおそ社 令おしなれ 桜花の名山 北国ノ人 一音
花の名所 大体
世の中を戻す桜のかげうすき
歌あるをもし筆をみ悲し芳野山 支考

遅桜 遅しみ村て桜うすき
折ふし咲ことのう山又山桜 立竹坊
よいことのと笑のおしへ山桜 大頭 半憲
桜かげと植ゑおもふ山桜 伊勢 麥林
伊勢方庵
いおしへのちゝの教の八重桜 彭ノ橋須 正和
改歳ありの云捨遺 寛信朝臣
折てこそかひもありけれ梅の花
春最初のうぐひすを初音とし聞ば嬉しき
ようこそ
古今集 春の下
春最初のうぐひすや老かくれ

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074

ガラス使用

逕以渭濁

本居

山桜咲初てとう白そ
古今集み
せば
吹風と谷のかとうち
花曇り
咲ほこる花みもりて
山寒く花遅きこそ
籾もみも咲知ぬ
石ぶす寺
寺好とふ遠代の名哥

中臣女
(イニ和泉の
家のこと)
月きうう花きうう

赤染衛門

如是我聞
咲ばたし ふま御いとの山桜うな
花をしの中み
川浪兼来

山桜咲そめてとう世のかとう
口吟てをしき千本の桜
人の如
古歌春の大阪山の桜をのみ
(歌枕のかとう桜とも
時歌迄御桜等せられ
名所へしとかうう
ひが名人の花とそ
詠みし

伊勢寿

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074

ガラス使用

山ざくらそのよの春の雪を花とも見てや折りてかざさむ

寿命経

山ふかみ心ありてや花の色のこれるもあるうらの桜しも
ちるをみてよそに思ひしあだ人の心をかへてなほ恋ふらん
ちるまでの世のしら人の心にてとまれる花のさくらなるらん
ちるとのみ人のながめし桜花心もとまるものにぞありける

源顕政

山桜いその世ふりても咲そめてたれ春ごとに人のながめし
春ごとに咲まされやは桜花もとの心をたれもうらむる
もとの心まどふ桜のさそふ風をいかにせよとか花の散らん

前大納言忠教

花とのみ又こそ見めと別しは幾世の春をかけて待つらん

仙林

咲ぬまは待つらふ人もそそもそも花ぞ心のあだにうつろふ

〃

今日花の日ごとにそふる心をもしらでうつろふ

又

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』 請求記号 特1-2074

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』 請求記号 特1-2074

ガラス使用

文政二子年　都花時候　池坊ヨリ年賀ニマイル

二月六日　六刻

〆り六ツ半　彼岸櫻　長樂寺　彼岸山門八日延

〆り六ツ半　清明　六十日目　知恩院

〆り六ツ半　糸櫻　長樂寺

〆り六ツ半　糸櫻　祇園一目千本

〆り七ツ　一日　糸櫻　羽柴寺　西行櫻ト

〆り七ツ半　一日　糸櫻　御室　御所　六日延

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号　特1-2074

ガラス使用

京都花時候　池坊ヨリ年賀ニ配ル　當地唐木屋宇兵衛玉澗

十三日目　春分　四十九日目
彼岸櫻　長樂寺　彼岸山門八日遅し

十三日目　清明　六十日目
糸櫻　知恩院ノ清水寺西門
大日目　糸櫻　長樂寺
十三日目　自櫻　祇園
六十日目　自櫻　祇園　嵐山
仝　　　　　　　　　　　　　　一
　　　　　　　　　　　　　　　二
　　　　　　　　　　　　　　　三
　　　　　　　　　　　　　　　四
　　　　　　　　　　　　　　　五
　　　　　　　　　　　　　　　六
　　　　　　　　　　　　　　　七
　　　　　　　　　　　　　　　八
　　　　　　　　　　　　　　　九
　　　　　　　　　　　　　　　十
　　　　　　　　　　　　　　　十一
　　　　　　　　　　　　　　　十二
　　　　　　　　　　　　　　　十三
　　　　　　　　　　　　　　　十四
　　　　　　　　　　　　　　　十五
　　　　　　　　　　　　　　　十六
　　　　　　　　　　　　　　　十七
　　　　　　　　　　　　　　　十八
　　　　　　　　　　　　　　　十九
　　　　　　　　　　　　　　　二十
　　　　　　　　　　　　　　　廿一
　　　　　　　　　　　　　　　廿二
　　　　　　　　　　　　　　　廿三
　　　　　　　　　　　　　　　廿四
　　　　　　　　　　　　　　　廿五
　　　　　　　　　　　　　　　廿六
　　　　　　　　　　　　　　　廿七
　　　　　　　　　　　　　　　廿八
　　　　　　　　　　　　　　　廿九
　　　　　　　　　　　　　　　三十
　　　　　　　　　　　　　　　三十一
　　　　　　　　　　　　　　　三十二
　　　　　　　　　　　　　　　三十三
　　　　　　　　　　　　　　　三十四
　　　　　　　　　　　　　　　三十五
　　　　　　　　　　　　　　　三十六
　　　　　　　　　　　　　　　三十七
　　　　　　　　　　　　　　　三十八
　　　　　　　　　　　　　　　三十九
　　　　　　　　　　　　　　　四十
　　　　　　　　　　　　　　　四十一
　　　　　　　　　　　　　　　四十二
　　　　　　　　　　　　　　　四十三
　　　　　　　　　　　　　　　四十四
　　　　　　　　　　　　　　　四十五
　　　　　　　　　　　　　　　四十六
　　　　　　　　　　　　　　　四十七
　　　　　　　　　　　　　　　四十八
　　　　　　　　　　　　　　　四十九
　　　　　　　　　　　　　　　五十
　　　　　　　　　　　　　　　五十一
　　　　　　　　　　　　　　　五十二
　　　　　　　　　　　　　　　五十三
　　　　　　　　　　　　　　　五十四
　　　　　　　　　　　　　　　五十五
　　　　　　　　　　　　　　　五十六
　　　　　　　　　　　　　　　五十七
　　　　　　　　　　　　　　　五十八
　　　　　　　　　　　　　　　五十九
　　　　　　　　　　　　　　　六十
　　　　　　　　　　　　　　　六十一
　　　　　　　　　　　　　　　六十二
　　　　　　　　　　　　　　　六十三
　　　　　　　　　　　　　　　六十四
　　　　　　　　　　　　　　　六十五
　　　　　　　　　　　　　　　六十六
　　　　　　　　　　　　　　　六十七
　　　　　　　　　　　　　　　六十八
　　　　　　　　　　　　　　　六十九
　　　　　　　　　　　　　　　七十
　　　　　　　　　　　　　　　七十一
　　　　　　　　　　　　　　　七十二
　　　　　　　　　　　　　　　七十三
　　　　　　　　　　　　　　　七十四
　　　　　　　　　　　　　　　七十五
　　　　　　　　　　　　　　　七十六
　　　　　　　　　　　　　　　七十七
　　　　　　　　　　　　　　　七十八
　　　　　　　　　　　　　　　七十九
　　　　　　　　　　　　　　　八十
　　　　　　　　　　　　　　　八十一
　　　　　　　　　　　　　　　八十二
　　　　　　　　　　　　　　　八十三
　　　　　　　　　　　　　　　八十四
　　　　　　　　　　　　　　　八十五
　　　　　　　　　　　　　　　八十六
　　　　　　　　　　　　　　　八十七
　　　　　　　　　　　　　　　八十八
　　　　　　　　　　　　　　　八十九
　　　　　　　　　　　　　　　九十
　　　　　　　　　　　　　　　九十一
　　　　　　　　　　　　　　　九十二
　　　　　　　　　　　　　　　九十三
　　　　　　　　　　　　　　　九十四
　　　　　　　　　　　　　　　九十五
　　　　　　　　　　　　　　　九十六
　　　　　　　　　　　　　　　九十七
　　　　　　　　　　　　　　　九十八
　　　　　　　　　　　　　　　九十九
　　　　　　　　　　　　　　　百

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号　特1-2074
ガラス使用

十四日目　嵐山　三軒屋　東大
六日目　法輪寺臺下　山内ハ十三日目
○穀雨　七十五日
鞍馬　芳野閣
山桜
長栄寺　物山内　門
穀雨
桜　芳野山奥ノ谷ヘ
三日目
桜　御室満開　本堂
吹売桜　清明ノ十四日目
太日目　平野　花の寺
桜　知恩院　糸ニ前ニヨリ浅黄ハ一
御室嵯峨嵐山之桜

十七日目　晴明ノ十日目
桜　鞍馬　西谷桜盛ノ頃
梅　梅谷具外　○落ヨリ七日目
桃　桃山具外　○清明ヨリ九日目
椿寺　具外　○清明ヨリ十一日目
○穀雨ヨリ九日目
○穀雨ヨリ十日目
○立夏ヨリ三日目

六日目 櫻 嵐山 三軒屋 東大谷ヨリ
法水寺臺下 山内ハ十三日目

○穀雨 七十五日

七十五日 山櫻 鞍馬 芳野奥
二日目 櫻 長樂寺 物山内 門前清明ノ十二日目 東大谷馬町
穀雨
三日目 櫻 芳野山奥ノ谷ヲ
四日目 吹亭櫻 御室滿開 本堂前清明十日目
五日目 櫻 清明ノ十四日目 花の寺 穀雨
平野 知恩院 余ノ前ニアリ 山内七十三日目
淺黃ハ四日目
御室嵯峨 戰亭之櫻

八日目 櫻 山櫻 清明ノ十日目
鞍馬 西谷 珠光菴 穀雨ノ三日目

梅 梅谷具外。
桃 桃山具外。
椿 椿寺具外。
山吹 所ニ
ツヽジ 所ニ
藤 所ニ

○落櫻ヨリ七日目
○清明ヨリ五日目
○清明ヨリ十一日目
○穀雨ヨリ九日目
○穀雨ヨリ十日目
○立夏ヨリ三日目

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074

ガラス使用

桐　咲ヨリ　落ル迄　五十日目

牡丹　園咲　○立夏ヨリ　尾張ハ穀雨ノ七日目　然則ハ八十八日目　○立夏ヨリ　三日目　盛也　十五日　遅

杜若　所ゝ　○立夏ヨリ　三日目　盛也　十二日　遅

蓮　宇治ハ所ゝ　夏至ヨリ　三日目　盛也　秋ヨリ　瀬田ハ夏至

萩　所ゝ　○白露ヨリ　十二日目

菊　所ゝ　○寒露ヨリ　十二日目

茶花　所ゝ　○霜降

楓　嵐山　○立冬ノ　翌日

高雄　○立冬ヨリ　三日目

真如堂　○立冬ヨリ　五日目

通天　○立冬ヨリ　七日目

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号　特1-2074

ガラス使用

文政十年亥春花時候　○三野厚見郡　岐阜住　松窗

さそそ〻古峯の日影も
ももも〻乃笠や春
霞む茅外

主人以例考之

贈遠國近里輩友春興帖

○諸所彼岸櫻　三月四日　咲出

○稲葉境内　三月十二日　花始開

○岐陽　三月十三日　本誓寺内糸櫻

○多藝郡　養老山中

○池田郡　池田山中霞間ヶ谷　三月廿一日

○拙考　如此

隨春候寒暖開落有遅速看者察之

十九日同所滿花　廿三日奥花盛
廿五日寺院葉櫻　廿七日匂櫻

十七日金花山梵鐘　廿一日長良川邊

廿七日七曲口名木

瀧邊三月　廿四日

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号　特1-2074

ガラス使用

文政十一子歳

三月廿七日

都花曆

彼岸櫻 春分ノ七日目

諸々彼岸櫻 春分ノ七日目

稲葉境内

口 仝八日目

中 仝十二日目

奥 仝十四日目

三月廿九日

葉櫻 春分ノ翌日

三月八日

破陽本誓寺境内 清明翌日

三月七日

糸櫻 清明前日 金花山 桜 清明九日目

三月廿三日

長良川辺 清明前日 曲ル 口名木

多藝郡養老灘辺 清明十三日目

池田郡 清明ノ九日目

二月廿八日 三月三日

文政十一子歳

二月廿八日

小石川 傳通院 蓮華寺

目黒 祐天寺

青山 梅窓院 むろ桜

高田 五智堂 不知桜

糸桜 清明

成子宿 常圓寺

小石川 牛天神

麻布 長谷寺

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』 請求記号 特1-2074

ガラス使用

諸々彼岸櫻　春分ノ七日目

稲葉境内

口　仝八日目

中　仝十二日目

奥　仝十四日目

葉櫻　春分ノ翌日

城陽本誓寺境内　清明翌日

糸櫻　清明前日　金花山　枠　遍　清明九日目

長良川辺　清明前日　曲ル口名木

多藝郡養老瀧辺　清明十三日目

池田郡　清明ノ九日目

江都花暦

彼岸櫻　春分十一日目

小石川　傳通院　蓮華寺

目黒　祐天寺

青山　梅窓院　むろ桜

高田　五智堂　不知桜

糸桜　清明

成子宿　常圓寺

小石川　牛天神

麻布　長谷寺

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074

ガラス使用

諸々彼岸櫻　春分ノ七日目

稲葉境内

口　仝八日目

中　仝十二日目

奥　仝十四日目

葉櫻　春分ノ翌日

波陽本誓寺境内　清明翌日

糸櫻　清明後百日仝花山棹　清明後九日目

長良川辺　清明後百日能曲リ口名木

多藝郡養老瀧辺　清明後十三日目

池田郡　清明ノ九日目

江都花暦

彼岸櫻　春分ノ十一日目

小石川　傳通院　蓮華寺

目黒　祐天寺

青山　梅窓院　むろ桜

高田　五智堂　不知桜

糸桜　清明

成子宿　常圓寺

小石川　牛天神

森布　長谷寺

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074

ガラス使用

上野　慈眼大師堂前　寒松院
　　等覚院　　元光院
　　護国院

日暮里　養福寺
市谷原町　願正寺　七面
西ヶ原　六阿弥陀
高田　穴八幡
牛込寺町　法善寺

清明　三日目　初花

三月廿二日

上野　東叡辺

清明　六日目

三月廿三日

上野　大佛辺
隅田川　土手
清明　九日目　寒松院前原　芝ぬぎ桜

三月廿四日

上野　四軒寺町
高田　水稲荷
清明　十二日

三月廿五日

護国寺　裏手今宮の辺　山桜
小石川　白山社　帆立桜　其外数品有り
弥生ヶ岡　其の大樹八早一
大久保　西白天神

上野　慈眼大師堂前　寒松院
　等覚院　元光院
　護国院

日暮里　養福寺
市谷原町　願正寺　七面
西ヶ原　六阿弥陀
高田　穴八幡
牛込寺町　法善寺
清明　三月　初花
上野　東叡辺
清明　六日目

上野　大佛辺
隅田川　土手
清明　九日目
上野　寒松院前原　芝ぬぎ桜
　四軒寺町
高田　水稲荷
清明　十二日
護国寺　裏手今宮の辺　山桜
小石川　白山社　帰立桜　其外数品有り
　神田の大樹ハ早し
大久保　西白天神

三月七日

法善寺　此辺ハ花見の古跡なり
駒込　吉祥寺
清明　十三日目
昌川　御殿山
大井　西光寺
未福寺
飛鳥山　躑躅の珍木ハ嵐山の種と云
上野　清水堂　桜多し山ハ封じてかく云ふ
日暮里　数品なれハ遅速難言
浅艸寺　千本桜　彼岸ハ遅速雑云
千駄谷　仙寿院

三月十日

谷中　穀雨　翌日
柏木　感應寺
渋谷　圓照寺
護国寺　金王桜
幡ヶ谷　数品なり　茶師宇治の旨の桜他ニ異也
新宿　不勤堂

三月十二日

小石川　穀雨　三日目　傳通院　大忠堂の辺
上野　清水堂　秋色桜ト云　楊貴妃也
市谷　自證院
新宿　三光院　花星稲荷

日十三日

法善寺 池ノ端ハ花見の古跡なり
駒込 吉祥寺
清明 十三日目
品川 御殿山
大井 西光寺
未福寺
飛鳥山 躑躅の砂山ハ嵐山の種とぞ
上野 清水堂
日暮里 数品なれハ遅速難言
浅艸寺 千本桜
千駄谷 仙寿院

穀雨 翌日
谷中 感應寺
柏木 圓照寺
渋谷 金王桜
護国寺 数品なり
幡ヶ谷 不動堂
穀雨 三日目
小石川 傳通院 大忠堂の辺
上野 清水堂 秋色桜トテ楊貴妃也
市谷 自證院
新宿 三光院 花屋稲荷

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号 特1-2074
ガラス使用

大久保　百人町　江戸橋ゟ一
三月廿日　穀雨　五日目
ゟ二子権現　名花多し　雪見山一文字　有助
深井　元　鴨場　花屋　南殿　大脇　浅黄
海棠の類

三日

○桃　七十日目　四谷中野桃園
牡丹　立夏ゟ三日目廻　西ゟ原牡丹屋
○霧嶋躑躅　立夏ゟ二日目　△深井　枝ぶり至て陳ス
自ゟ〻　花之寺　△大塚護国寺　石段　二日遅モ白
△上野のつゞき　△根津権現　躑躅
○藤　小滝　△上野山王前　△亀戸
△坂本　金龍寺　△高川　玲瓏
△大塚　護国寺　仏殿古
△佃　住吉社内
○杜若　小滝　五日目　△根津権現　躑躅
○花菖蒲　是至　△浅草の寺迄　菖蒲のつゞき　葉ゟ高くいみ
花移ゝし咲ゟ

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号　特1-2074
ガラス使用

大久保　百人町　江戸橋多し

穀雨　五日目

王子　權現　雪見山一文字　有明

滝井　元　鴬鴨　花屋　南殿　大脇　浅黄
名花多し　梅の類
浜御殿ちかし

○桃　七十日目

○牡丹　立夏ヨリ三日目盛　四谷中野桃園

西ヶ原牡丹屋

○霧嶋躑躅　立夏ヨリ二日目　△深井　植木屋　珍らし

△大塚護国寺　石坂　二日程モ遅し　白

白ふくし　花あり　△上野のごとし

△上野山王祭

○藤　小満　△上野山王祭

△坂本　金龍寺

△大塚護国寺　仏明寺

○杜若　小満ノ五日目　△根津権現　境内

△亀戸

○花菖蒲　夏至　△亀戸　△小川　珍らし

花珍らし　咲きそろう

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号　特1-2074

ガラス使用

○萩 白露ノ五日目 長谷寺 △淡島ノ社 雨乞ノ
十月六ヶ日ノ菊 立冬ヨリ五六日目 目黒 青山 四ツ谷 巣鴨
本所 駒込 初て枯ル空の薗かも多し
十月十日
○紅葉 立冬ヨリ十日目 品川海晏寺 品川東海寺 二三日早し
目黒不動 浅草觀音寺 ヤヽ遅ク
下谷眞間弘法寺 ドコヨリモ三里余ノ所ニ有ト云 名所ナリ
志賀浅ぢ ○多那の社 志賀の辻
ちかの名所にて是も多し

○萩　白露ノ五日目　上野寛永寺　谷中天王寺

○菊　立冬ヨリ五六日目　目黒　青山　四ツ谷　巣鴨

本所　駒込　染井　小石川植物園　其外多シ

○紅葉　立冬ヨリ十日目　小川　小石川伝通院　小石川東漸寺　二三日早シ

目黒不動　浅草観音寺　少シ遅ク

下経堂　弘法寺　ドノクラノ三里ヨリ内外ニ仮リ名アリ

高尾　多摩郡ノ社　高尾ノ辺

モミヂ　多摩郡ノ辺　多シ

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号　特1-2074

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』 請求記号 特1-2074

ガラス使用

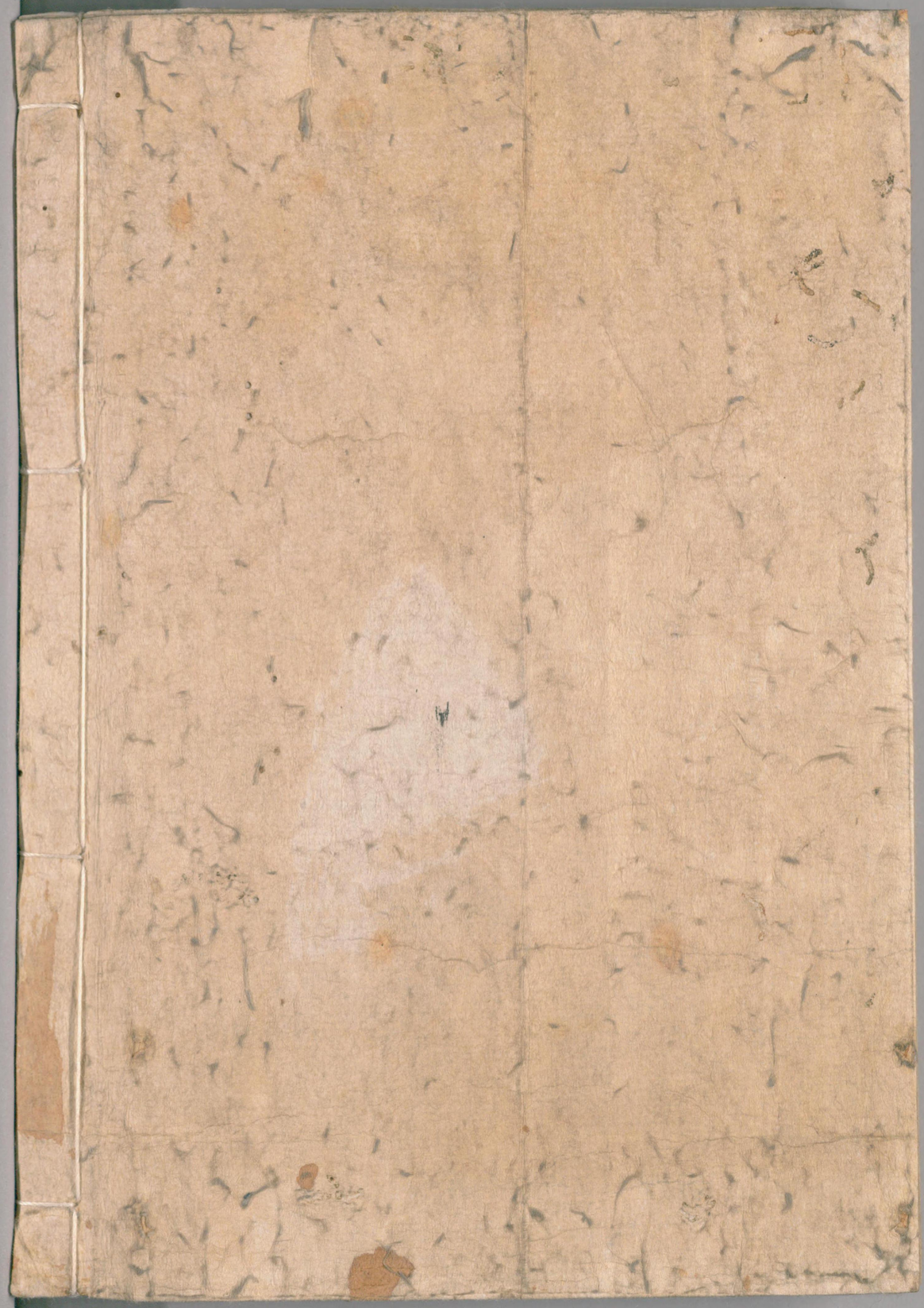
国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』 請求記号 特1-2074

ガラス使用

特 1
2074

国立国会図書館　タイトル『しきのくさぐき』 請求記号 特1-2074

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『しきのくさぐき』　請求記号　特1-2074

ガラス使用